資料２

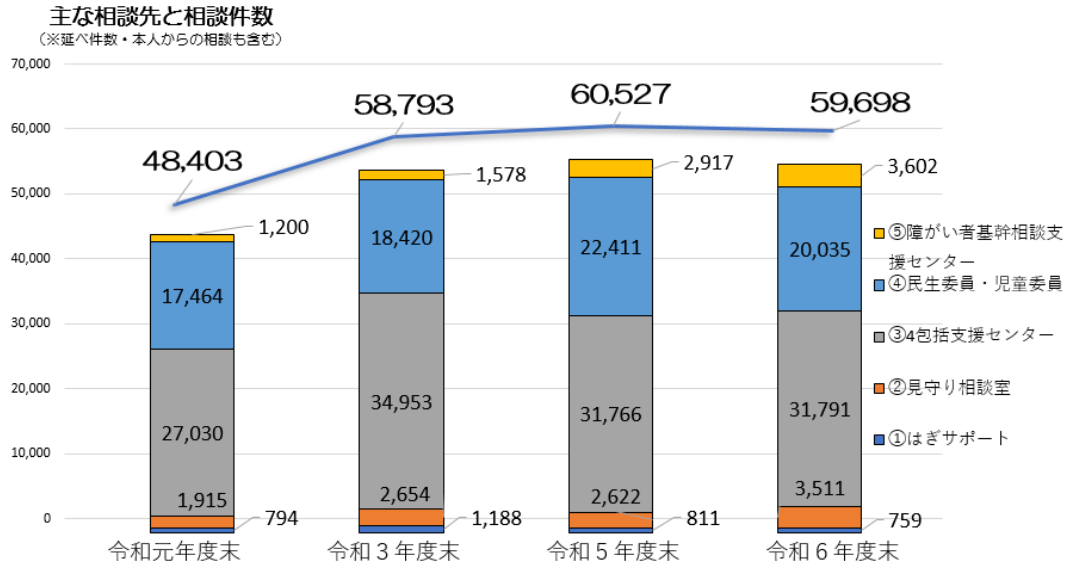
重点項目①　新たな西成区の地域福祉推進体制（つたえる、つくる）

◆気にかける・つながる・支え合うために

＜令和7年度の振り返り＞

➤地域と連携する窓口（かけはし）の充実

地域内の主な相談窓口への相談状況について、高齢者人口が減少傾向のなか、相談件数は増加傾向から横ばいで推移している状況となっている



＜令和8年度の取り組み＞

➤現在の取り組みを継続して実施し、さらなる充実を図る

・複合的な課題を抱えた人を支援する「つながる場」（総合的な支援調整の場）の事例紹介を通じて、事業の趣旨や取り組み内容を周知し、協力者を増やす

・地域の協力者（ケアマネジャー、相談支援員等の福祉事業者、民生委員、ネットワーク委員など）に対して、集いの場等により「気づき」と「つなぐ」を伝える

高齢者人口の推移

各年11月1日現在	人口総数	65歳以上人口	比率
R2	105,971	42,733	40.3%
R3	105,418	41,917	39.8%
R4	105,976	40,924	38.6%
R5	105,936	40,070	37.8%
R6	106,063	39,261	37.0%
R7	105,924	38,451	36.3%

大阪市HP「年齢別推計人口」より

資料２

重点項目② 地域福祉活動への参加促進と担い手の確保（一緒にすすめる）

◆地域活動へ参加するためのきっかけづくり

＜令和7年度の振り返り＞

➢ボッチャ及びeスポーツを活用した地域活動への参加者の増加と活性化

・ボッチャは地域などの各関係者と調整を行うことでこどもの参加につながりはじめた
・eスポーツは、地域への周知を継続したことで出張開催の相談が増加

ボッチャ大会の様子

西成区障がい者自立生活支援調整協議会主催
ボッチャ大会（R8.1.14） 参加：12チーム（約50名）
第3回ジャガピー杯ボッチャ大会（R8.1.31）
参加：39チーム（約200名） うち、こども3チーム（14名）
サポーター向けスキルアップ講習会の開催（R7.12.9） 参加：11名

eスポーツ体験会を計12回実施。
参加計245名 うち、出張開催6回（80名）
（R4：15名、R5：194名、R6：200名）

＜令和8年度の取り組み＞

地域活動への参加促進に有効な活動であると考えられるため、引き続き世代間・地域間など相互の交流の活性化に取り組む

➢ボッチャ大会の実施

・引き続き、地域、子育て等関連施設と連携を行い、世代間交流ができるよう休日での開催で調整を行う

➢ eスポーツ大会・体験会の実施

・ eスポーツ大会（ボウリングなど）、世代間交流（高齢者と子どもが一緒に楽しむ機会）の場を検討する
・老人福祉センターでの開催を中心に、希望のある地域へ出向き体験会を実施することで、参加促進を図る

➢担い手の確保

・区役所作成の町会加入促進リーフレットを活用した周知、呼びかけを継続する

資料２

重点項目②　地域福祉活動への参加促進と担い手の確保（一緒にすすめる）

令和8年度　地域福祉フォーラム　開催（案）

【テーマ】　**「いろんな人がいるからおもしろい！」**

～共に支え合う地域づくりをめざして～

【内　容】
- ➤ 講演
  外国人とともに暮らすまち　西成　～外国人住民の声を聞こう！～
- ➤ 多文化交流会
  文化や生活習慣などの違いについて外国につながる住民のみなさんと話してみましょう！

【形　式】　講演会と外国人パネリストとの交流会

【日　時】　令和8年10月31日（土）10時30分～　西成区役所4階会議室

（区社協主催の多文化共生フェスタ（西成区民センター）と同日開催）

★参考★　「多文化共生フェスタ」とは、
多文化に触れるワークショップや講座の開催、外国にルーツを持つ方との交流、展示などを
関係機関・学校・NPO・ボランティアなどの協力を得て、お互いの文化を知り、交流を深める

資料２

重点項目④ 複合的な課題を抱えた人への支援体制の構築（支援する）

◆さらなる支援者間（多職種）の連携

＜令和7年度の振り返り＞

➢多職種の連携をめざし情報を発信

・西成区障がい者自立生活支援調整協議会　精神保健福祉連携部会（ R7.5.16）
・生活保護担当新任研修会（R7.5.28）
・西成区（北・中・南）ブロックケアマネジャー勉強会（R7.10月～R8.2月）
・西成区地域ネットワーク委員研修会（ R7.6.4）（R8.2.10）
・西成区役所全職員に対し感度向上を目的としたeラーニング研修（R8.2月～3月）

「つながる場」
相談件数：２６件
開催件数：　８件
参加者数：８０人

➢「つながる場」の開催

・認知症、ごみ屋敷、不登校などの課題に、多様な支援機関や地域関係者が参加し、支援方針の分担・共有
・事案に応じて専門的な知識を持つスーパーバイザーが参加

＜令和8年度の取り組み＞

➢引き続き情報を発信することで、地域の協力者に「かけはし」の認識を深め、さらなる支援者間の連携に取り組む

・地域の協力者（ケアマネジャー、相談支援員等の福祉事業者、民生委員、ネットワーク委員など）に対して、集いの場等により「つながる場」（総合的な支援調整の場）の事業趣旨や取り組み内容の周知を実施
・西成区役所職員全体の感度（気づき）向上を目的とした研修を実施
・複合的な課題に対し専門的な知識をもつスーパーバイザーの活用

資料２

重点項目③　要援護者の発見と地域における見守り体制の強化（支える体制をつくる）
重点項目⑤　地域の生活課題の解決や自分達の住む地域を「考える」場づくり支援

◆要援護者名簿の活用と地域の見守り

＜令和7年度の振り返り＞

➢ 16地域に更新した要援護者名簿（西成つながり名簿）を提供

≪各地域の主な取り組みの状況≫

飛田地域	民生委員が、要援護者名簿を活用し家庭訪問を実施 見守り相談室・包括支援センター・ブランチが協力し、地域内のマンションを個別訪問し状況の把握を行う
津守地域	町内の情報発信・居場所と見守りを兼ねる場として茶話会を実施
天下茶屋地域	包括支援センター等と連携し「見守り声掛け訓練」を実施 稲嶺区長や山王ブランチ職員が扮する道に迷った高齢者に対し、地域の方がどのように声をかけ、どのように対応するかを実際に体験

≪個別避難計画作成状況≫　累計324件

見守り声掛け訓練の様子

＜令和8年度の取り組み＞

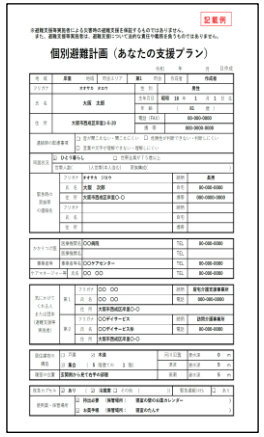
➢ 16地域に更新した要援護者名簿（西成つながり名簿）を提供（8月以降順次）

・地域の取り組み状況や課題の聞き取り、活用方法を一緒に考える

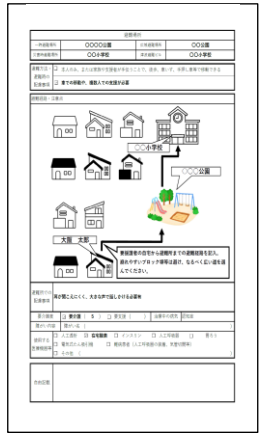
・認知症高齢者等見守りネットワーク事業の協力者（メール登録事業者）の開拓

➢要援護者名簿をもとにした個別避難計画の作成

・引き続き西成区の避難行動要支援者のうち、優先度が高い方から作成に取り組む



個別避難計画（あなたの支援プラン）



資料２

重点項目③　要援護者の発見と地域における見守り体制の強化（支える体制をつくる）
重点項目⑤　地域の生活課題の解決や自分達の住む地域を「考える」場づくり支援

➤各地域の名簿保有状況

地域支援団体	①地域活動協議会	②連合振興町会	③民生・児童委員	④地区社会福祉協議会	⑤ネットワーク委員会
3団体で保有	弘治	長橋	今宮	玉出	津守
	②③⑤	②③⑤	②③⑤	②③⑤	②③⑤
2団体で保有	橘	松之宮	千本	飛田	
	①　③	②　④	①　③	②　③	
1団体で保有	萩之茶屋	梅南	岸里	南津守	北津守	山王	天下茶屋
	②	①	①	③	①	①	①